

地球環境を守ることは、未来を守ること。今、私たちに何ができるのか。暮らしの中の身近な取り組みから、生産と消費の現場における新たなチャレンジ、国際的な動向まで、環境をめぐる最前線の動きを連載で紹介する。



神津会長より表彰盾を贈呈

「労働組合のエコ活動PRアワード2018」連合会長賞

連合栃木 エコ・プロジェクト 誰でも、いつでも、どこからでも

連合栃木のエコ・プロジェクトは、①家庭で読まなくなった絵本のリユース「絵本ひろば」、②「家族とともに環境について考えよう」ポスターと標語の募集、③「残さず食べよう15・10(いちご・いちまる)運動」の3本立て。そのねらいや取り組みを広げる工夫について聞いた。



金子徳明 かねこ のりあき
連合栃木副会長、
エコ・プロジェクト委員長

桂 恵子 かつら けいこ
連合栃木
副事務局長

白土光枝 しらと みつえ
連合栃木
政策担当部長

「この取り組みを始めた経緯やねらいとは？」

このプロジェクトは、連合本部の「エコライフ21」運動の呼びかけを受けて2003年にスタートしました。主に公開学習会や視察研修などを行い、エコキャップ回収を推進してきました。

実は、エコ・プロジェクト活動の必要性が一部で問われていたが、誰でもいつでも取り組めるエコ活動は、組合員に呼びかけやすい。地球環境を守るという大きな課題だからこそ、一人ひとりの小さな積み重ねが大事だということと伝える運動は、労働組合にとって必要だと思い、「エコ・プロジェクト」

「クト」の価値を高める活動を展開することとしました。

2016年、一時休止になっていた「世界の子どもにワクチンを」というエコキャップ回収を復活させるとともに、新たな運動として出たアイデアが「短い鉛筆回収運動」でした。器具を使って短い鉛筆をつなぎ、使える長さにして再利用するものです。不要になった短い鉛筆の回収を呼びかけたら、未使用の鉛筆も含めて約1万5千本が集まりました。エコ・プロジェクト委員で仕分けして、県内10カ所の児童福祉施設に寄贈し、メーカーでは「短い鉛筆をつなごう」イベントを開催しました。これをきっかけに、活動に参加してくれる構成組織や地協が増え、2017年に「連合エコ大賞」を受賞しました。

現在、構成組織や地協、女性委員会、青年委員会からも広く参画してもらえようになり、活動の幅がぐっと広がっています。それで新たな賞にも挑もうと…。

目的は家族で環境に「ごん」考えること

「受賞理由として、運動が組合員

をやりました」と一文添えれば、それで運動がスタートできる。効果が目に見えて大きく、参加した人たちがみんな喜んでくれる。だから、またやろうと。

3つの取り組みが定着し広がったのは、誰かに喜んでもらえる運動であったからだと思います。「絵本ひろば」は、本が捨てられなくて困っている人がいて、新しい本の購入予算がない施設があつて、それをマッチングさせることで双方に喜ばれた。

「15・10運動」は、思わぬメリットがあることもわかりました。実際に運動で食べ残しが減ったんですが、宴会場の仲居さんが「いい運動ねえ。私たちが仕事で楽たわ」と言ってくれた。きれいに食べるのと片付けが楽で仕事が早く終わるから、「働き方改革」にもつながっていたんです。

改めて労働組合が環境問題に取り組み意義とは？

エコ・プロジェクトに取り組み中では、「労働組合とエコ活動を合わせたら社会貢献になる」という気づきがありました。地球環境問題に取り組みことは、労働組合の使

や家族にとどまらず、組織外へも広がったことなどが挙がっています。その内容や特徴は？

「絵本ひろば」は、絵本や学習教材、DVDなどを回収し、放課後児童クラブや子ども食堂などに寄贈する取り組みです。組合員から、子どもが大きくなって読まなくなった本がたくさんあるけど捨てられずに困っているという話を聞いて、有効活用できないかと…。機関紙やかべ新聞で呼びかけたところ、絵本1500冊、DVDが200巻も集まったんです。多くの人に持って帰ってもらうため「絵本ひろば」を開催したら大盛況で、地元新聞にも紹介されました。

「環境ポスター」「環境標語」は、家族で環境について考えるきっかけにしておくと、組合員のお子さんからポスター23点、組合員とその家族から標語130点の応募がありました。ポスターの最優秀作品はA2判ポスターにして、加盟組合400組織に配布、1年間の掲載をお願いしました。今後は優秀作品で「環境カルタ」をつくりたいと思っています。応募作品をみると、親子でどんな会話をしたのか伝わってくるほのぼの

命です。SDGs(国連持続可能な開発目標)に「つくる責任・つかう責任」があります。エコ・プロジェクトは、組合員一人ひとりが身近なところから何をしなければいけないのかを考える、きっかけづくりの場としています。

今後の展望や連合への要望は？

絵本や鉛筆の回収は地協レベルで定着し、声をかけなくても自然に集まるようになりました。今年第二弾となる「環境ポスターと環境標語」に取り組んでいます。構成組織や地協のみなさんは、次はどんな企画が提案されるのか楽しみにしてくれているので、その期待に応えたいですね。活動のポイントには「誰でも、いつでも、どこからでも」。身近で取り組みやすく、喜ぶ顔が見られるからまたやろうと思える。そんな好循環をつくりたいと思います。

今回の受賞をきっかけに、取り組みが全国に広がってくれば嬉しく思います。連合には、このような全国の活動を共有できるようにしてほしいと思います。

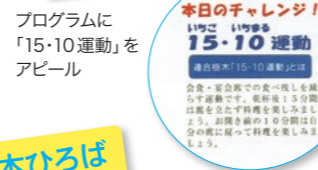
「ありがとうございました。」



組合員のお子さんが描いた環境ポスター



A4判の紙を三つ折りにして使う自立型スタンド



プログラムに「15・10運動」をアピール

絵本ひろば

絵本ひろばが紹介された新聞記事

不要絵本など 団体に無償提供
25日、連合栃木 連合栃木は25日、絵本やDVDを無償提供する「絵本ひろば」を宇都宮市中央祭町の野野宮福祉センター1別館駐車場にて初めて開く。放課後児童クラブや子ども食堂、児童福祉センターなど、児童福祉施設に取組む団体や施設などが対象となる。連合栃木が毎年実施しているエコプロジェクトの一環。不要の絵本などを有効活用し、連合栃木に加盟する組合員から家庭で読まなくなった絵本などを集めた。絵本や図鑑、実用書など約100冊、DVD約200本の中から、必要ものを無料で持ち帰れる。午前10時～午後2時、雨天実施。混雑を避けるため事前申し込みが必要。問合せ 栃木028・650・5555。

食品ロス削減が働き方改革にも

「組合員の反応や運動の広がりの手応えは？」
どの取り組みも、役員や組合員の負担にはなりません。懇親会の案内に「今日は15・10

ポスター・標語

- 最優秀賞
- 1人1人のエコ意識 小さな努力で 大きな効果
- 優秀賞
- 限りある豊かな緑きれいな空気みんなを守ろう 栃木の自然 未来に残す限りある資源みんなを守る 明るい笑顔
- 環境は一人ひとりの自覚から次世代に残そう 自然の宝物
- 守ろうよ豊かな自然と明日の地球

130点から選ばれた最優秀賞と優秀賞の標語